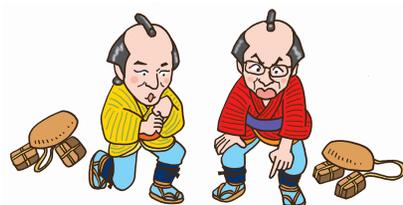


担当者
が
語る
発掘調査

30年
講座
連続講座 2

2016年7月24日(日) 13:30～
愛知県陶磁美術館 本館講堂
埋蔵文化財展「弥生への旅 朝日遺跡」



一宮市八王子遺跡

樋上 昇

(愛知県埋蔵文化財センター 調査研究専門員)

キーワード：土偶、銅鐸、井泉、埋没古墳、畿内系土師器

八王子遺跡は一宮市の南西部にあります。かつて濃尾平野を乱流していた木曾川の旧河道に沿って、北東から南西方向に、南北約3.5km、東西約0.7kmの範囲に広がる萩原遺跡群の最北端に位置しています。

遺跡は東海北陸自動車道建設にともない、平成7～9年度に調査しました。その結果、弥生時代前期から戦国時代にかけての膨大な遺構と遺物が確認されました。

弥生時代前期には、旧河道の北側で2～3条の環濠をめぐらす集落がみつき、内側の環濠内から土偶の頭部が出土しました。

弥生時代中期中葉には居住域が西側に移り、2条の環濠の内側には竪穴建物などの痕跡が多数確認されました。

弥生時代中期後葉には環濠が埋没します。集落の内部では逆さに埋められた銅鐸（外縁付鈕1式）がみつかりました。銅鐸が集落内で発掘調査時にみつかったのは、愛知県内では朝日遺跡に次いで2例目で、倒立埋納の銅鐸は全国でも数例しかありません。集落廃絶後には方形周溝墓群が築かれます。方形周溝墓には長辺が20mを超えると推定される超大型のものがああります。

弥生時代後期には旧河道が埋没し、集落域が旧河道の名残の谷の南側に移動します。

弥生時代終末期～古墳時代初頭には、谷の北側に大型掘立柱建物を囲む長方形区画が出現し、谷の北肩には幅約10mの大溝が掘られて大規模な井戸（井泉）が築かれます。この井泉の周辺からは、大規模なマツリに関わる品々が出土しています。谷の南側は居住区があり、井泉でのマツリを主宰した人物が居住していたと考えられます。

次回は8月7日(日)「城山城跡」、「室遺跡」、「岩座神社遺跡」

お問い合わせ先



公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

Tel. 0567-67-4163 Fax. 0567-67-3054

<http://www.maibun.com/top/>



古代は3時期で、6世紀中葉～7世紀後半には5基の円墳の痕跡があります。

7世紀末～8世紀中葉には、この地域の有力者の屋敷跡があり、当時の都で用いたものと同様の土師器の器や製塩土器がたくさん出土しました。

9世紀代には珍しい鳥形硯なども出土しており、この八王子遺跡が古代には尾張国中嶋郡拝師郷の中心地であったことがわかりました。

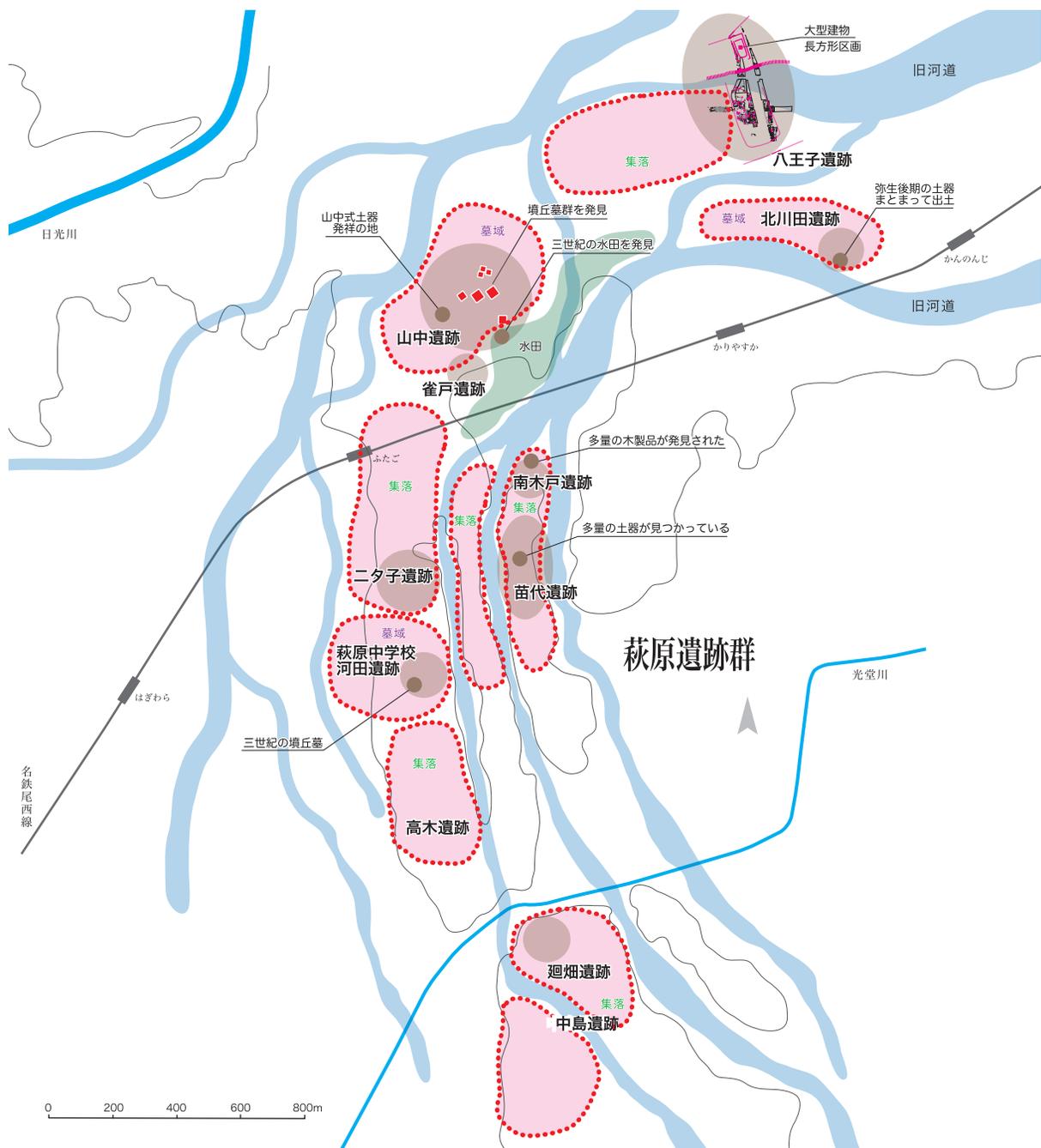
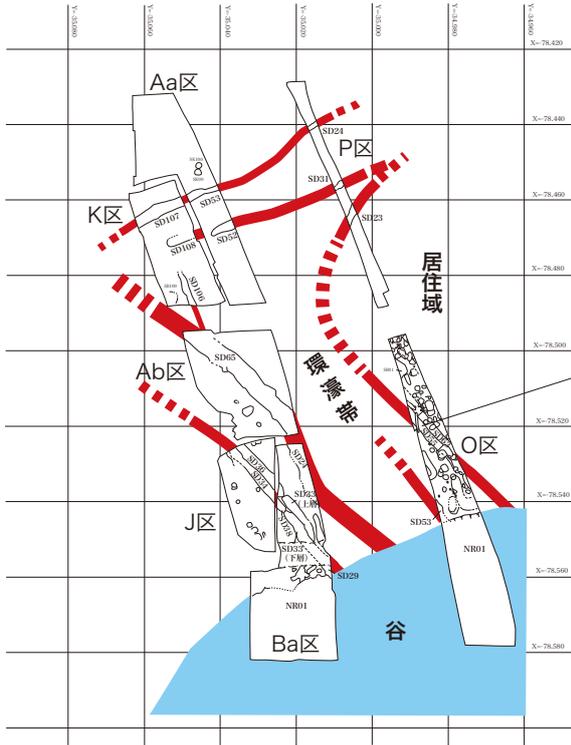
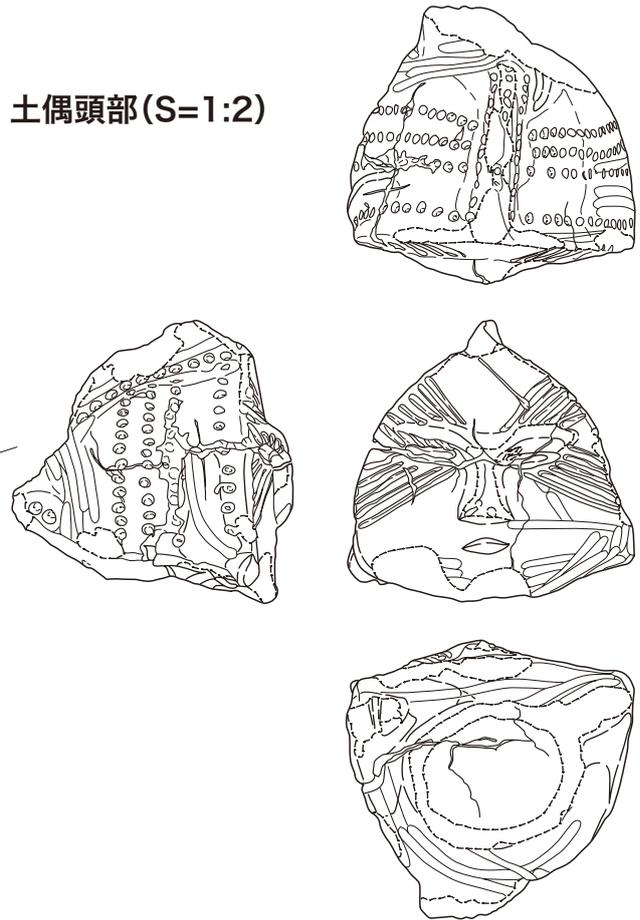


図1 萩原遺跡群(1:20000)

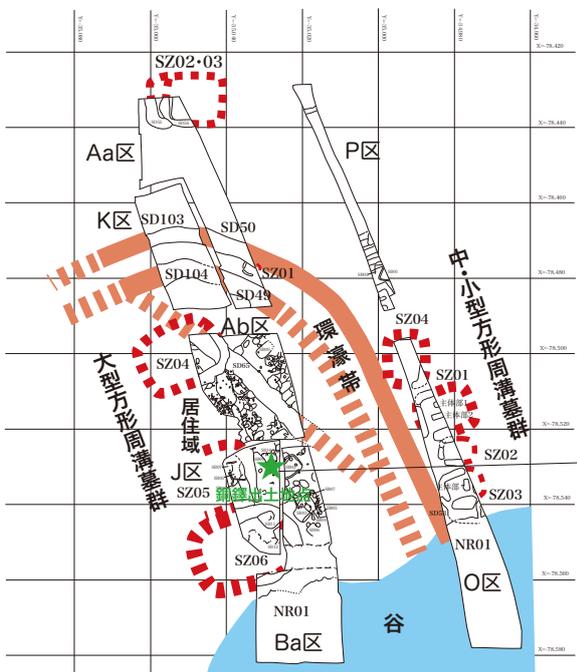
弥生時代前期



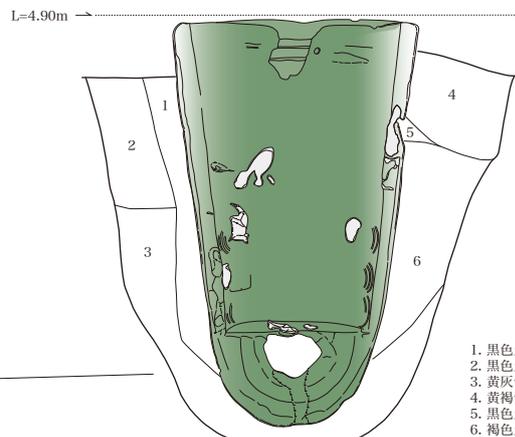
土偶頭部(S=1:2)



弥生時代中期中葉～後葉



1/2 0 10cm



銅鐸埋納状態 (S=1:4)

1/4 0 20cm

- 1. 黑色土
- 2. 黑色土
- 3. 黄灰色土
- 4. 黄褐色土
- 5. 黑色土
- 6. 褐色土

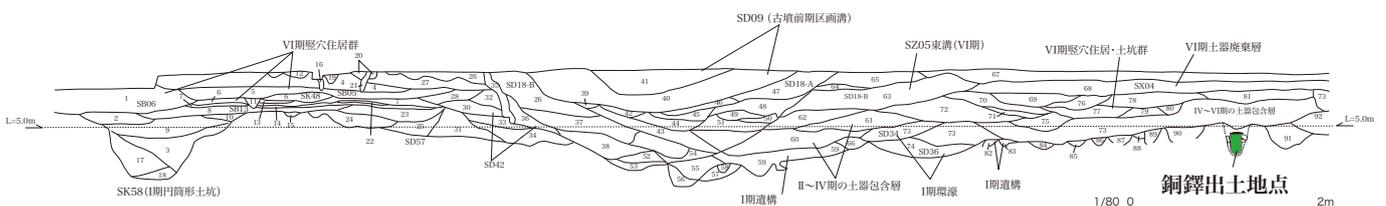


図2 弥生前期～中期

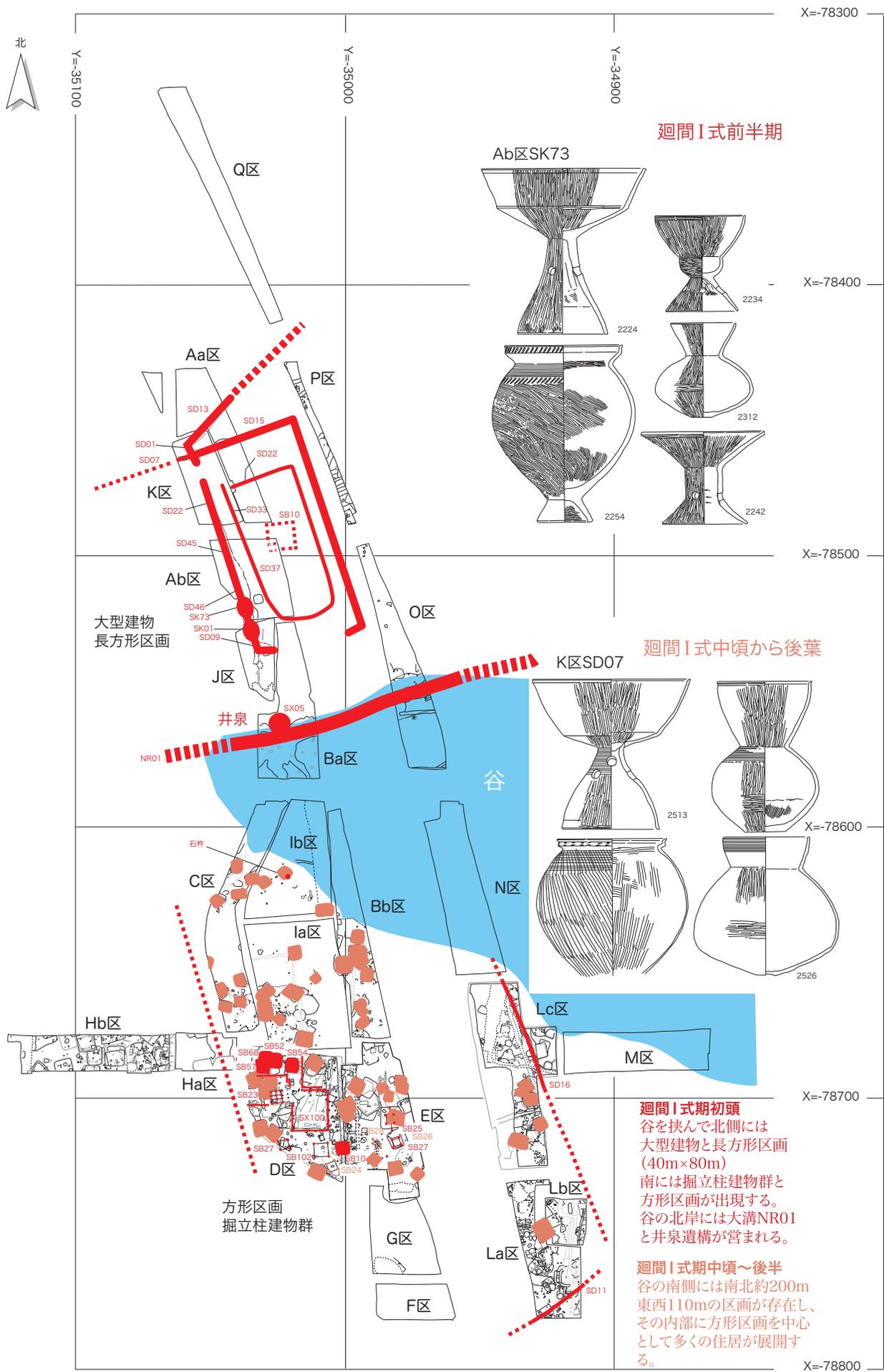


図4 廻間I式初頭～後半(1:2000)

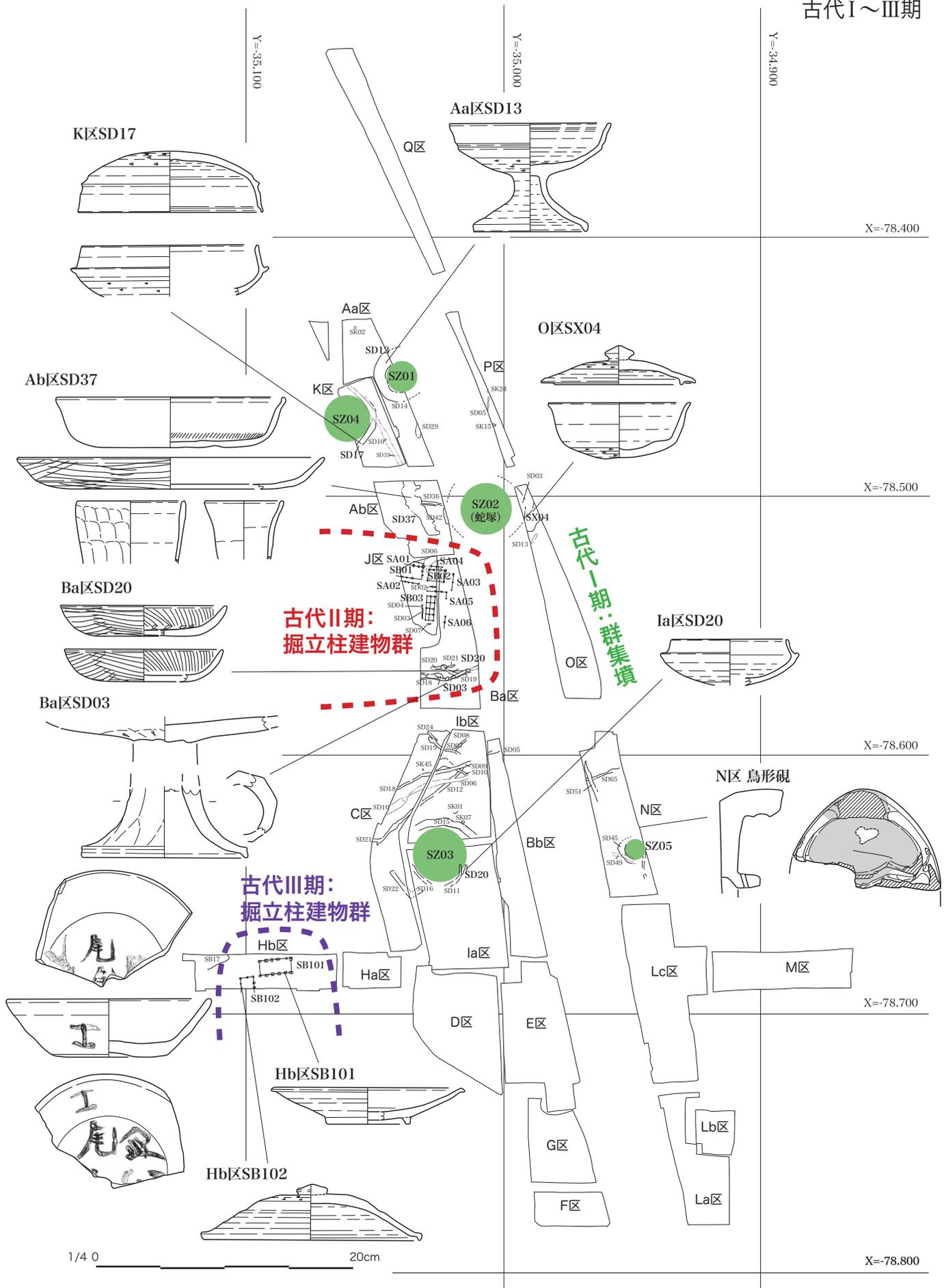


図5 古代1~3期(1:2000)